



「渋川市の 花あじさいで環境づくり」

NPO 法人渋川広域ものづくり協議会 会長 岸 邦夫さん

発表事例

Case.3

渋川市の花「あじさい」等を用いた環境づくりについて話をさせていただきます。

私たちの団体は、法人会員が 30 社、個人会員が 90 名という中で活動をしており、主な活動が 4 つあります。1 つはあじさいの除草と手入れ、もう 1 つは小野池公園であじさいが咲いたときのフラワーガイド、3 つ目は里山づくり、4 つ目は花づくりです。里山づくりでは平成 21 年に小野池の里山に 100 本のさくらを植えました。花づくりについては、種まきや鉢植えから一般の方に参加をいただき、成長した苗を各自治会や地域の皆さんに配布をさせていただき活動をしています。また、地域の幼稚園にも参加させていただき、マリーゴールドやパンジー等を育ててもらっており、これは我々の大きな楽しみ・希望となっております。この他、グリーンカーテンづくりにも取り組んでおります。まず、私たちの会員に 1000 粒の種を配り苗作りを行います。出来た苗を回収し、自治会の皆さんや公共施設、学校等に配布をさせていただき形で、こちらでも皆さんに協力をいただいております。出来たゴーヤの実については、毎日ゴーヤチャンプルでは飽きてしまったという話が出ましたので、色々考えた末に「ゴーコン汁」というものを考えてみました。これは、ゴーヤの「ゴー」、渋川市が生産量日本一のコンニャクの「コン」、ゴーヤとコンニャクを絡めた汁物で平成 22 年に商標登録をしております。

あじさいについての取り組みの主なものとしては、月 1 回、中村と東町の 2 箇所を皆で除草作業と花の手入れをしております。非常にありがたいことに、会員以外の地域の企業の皆さんにも協力をいただき、一緒に作業を行っています。この場所は中央分離帯内や道路脇ですので、芽が出るまではポイ捨てが非常に多くあります。芽が出てくるとそのポイ捨てが少し減り、一面に花が咲くとほとんどポイ捨てが無くなります。やはりポイ捨てをするような人でも綺麗なところは遠慮し、汚いところにゴミを捨てるのだと思います。

小野池公園においても同じことが言えます。ボランティアでゴミ拾いをしている小野池倶楽部という団体と、フラワーガイドをしている私たちが両輪となって活動しておりますので、ゴミがほとんど落ちておりません。ゴミのない公園ですので、ゴミを捨てる方はほとんどいません。小野池公園は 20 種類のあじさいが 8000 株植栽されており、色々なあじさいが咲き競っておりますので、是非、皆さんにお出かけいただきたいと思います。

このように花や緑で綺麗にするとゴミが減少するということは、我々が立証済みです。花を作って、花を飾って、これからも花づくりを通して綺麗な良いまちづくりに努めてまいります。



「ハワイアンフェスティバルで 伊香保温泉のまちおこし」

(一社) 渋川伊香保温泉観光協会 会長 大森 隆博さん

発表事例

Case.4

まず、なぜ伊香保でハワイアンなのかと申しますと、明治の最初の頃、日本ハワイ移民の父と呼ばれていたハワイ王国アルウィン公使が伊香保に別邸を持っていたことから、1988 年に伊香保町とハワイ郡が友好契約を結び、その後、1997 年に姉妹都市契約を結びました。そのことが縁で 1997 年にハワイアンフェスティバルが始まりました。当初は、残念ながら閑古鳥が鳴いているような状態でした。踊り手がいないため、地域の公民館や東京等にお伺いして参加の要請をしました。本当に頭を下げてやっと出ていただいたのが、競技会に 17 チームの 94 人、発表会に 37 チームの 334 人です。5 日間の開催でしたので、ステージがいつでも空いている状態でした。

イベントの継続自体迷っていましたが、3 年目にもう一度考え直そうとなり、分散していた会場を一本化し、入場料を取るのをやめ、野外ステージで踊っていただくこととしました。併せて、競技会は 4 年に 1 回の開催としました。しかし、継続することは本当に大変なことで、当時は苦情の嵐でした。そんな時、本場のハワイ島のメリーモナークフェスティバルの創始者であるドロシー女史が伊香保にお越しになつたので相談をしたところ「あまり気にしない方がいい。私たちも当時はそうだった。キングカラカウア・ザ・メリーモナークという冠がある限り、(正式名称はキングカラカウア・ザ・メリーモナーク伊香保ハワイアンフェスティバル。キングカラカウアはハワイ王国の最後の王様の名前。メリーモナークは陽気な王様のニック

ネーム) 必ず将来日本において一番権威のある大会になるからそれまで頑張りなさい」と言われ、約束をしました。

その後、お客様も増え、参加者が抽選をしないとステージの上で踊れない状況になりました。現在は、ステージで踊る方だけで 7000 人を超え、今年は初めて渋川の市民会館を使い 4 年に 1 回の競技会を行いました。おかげさまで約 1300 人入る市民会館の大ホールが 2 日間ともずっと満席という状況になりました。ドロシー女史と約束したとおり、名実共に日本で一番になったかなと思っております。

ハワイの皆さんの伊香保に対する思いは、私どもが考える以上で、日系人の皆さんからは、伊香保でのんびり温泉に入り、ヘルシーな日本料理を食べ、日本の雰囲気を楽しむことが見果てぬ夢だということをお願いしています。ですから、これはもうただのイベントではなく、文化交流や国際交流であるということもいつでも考えておりますし、これから将来に向けては、文化交流、国際交流に加え、経済交流の場と出来ないかと考えております。

私どもの夢は、ハワイの皆さんに「日本に行ったら伊香保だよ。渋川の伊香保に行くんだ」というように、伊香保をハワイ人が訪れるメッカにするということです。閑古鳥が鳴いていた頃から、第 17 回を迎え、これからどうしていくかを真剣に考えながら、もっと地域の皆さんに御理解いただける様な素晴らしい大会にしていかなければと思っております。